

道路整備の成果主義への転換

－石川県道路行政の達成度報告書・業績計画書策定の背景－

道路は、私たちの生活に密着した不可欠な社会資本であり、第二次世界大戦後は、急速な経済成長に伴い激増した自動車交通量に対応するため、絶対的に不足していた道路の「量」の確保を目的に、舗装率、改良率、歩道設置率などを指標として、12次にわたる「道路整備五箇年計画」により整備が進められてきました。

石川県内の道路についても、これまでの整備により、一定の量的ストックが確保され、社会経済活動を支えるとともに、県民生活の向上に大きく寄与してきたところですが、まだまだ整備が必要な箇所は残されています。このため、平成14年度に、県内の有識者からなる「石川の道を考える会」からの提言を踏まえ、これからの石川の道路整備の方向性を示す「新しい石川のみちづくり指針 潤いある石川のみち」を策定し、この中で、4つの「みちのあり方」とともに、みちづくりの効果やその進め方の「評価・点検」の実施を位置付けています。

そこで、昨年度から、成果主義にもとづく指標により、目指すべき成果を事前に設定した「平成15年度道路行政の業績計画書」を公表し、成果主義の道路行政マネジメントをスタートしました。

この「平成15年度達成度報告書・平成16年度業績計画書」は、昨年設定した目標の「達成度」を確認し、その結果を踏まえ、今年度の目標値を「業績計画」としてまとめたものです。

表 「成果指標」と「新しい石川のみちづくり指針」との関連

新しい石川のみちづくり指針 みちのあり方4つの柱 業績計画書の 「成果指標」	生命・生活を守るみち	快適で豊かなまちづくり・都市づくりを支援するみち	地域の活力を高め、活性化を図るみち	細長い県土を一体化し、広域交流を進めるみち
1. 渋滞による損失時間		○		
2. 高速ネットワーク（いしかわ広域交流幹線軸）確保率			○	○
3. 死傷事故発生率	○			
4. 冬期の快適性確保率			○	○
5. いしかわ観光周遊確保率			○	○
6. 地域内連絡道路安心すれ違い率	○		○	
7. 通学路安全率	○	○		
8. 主要駅周辺のバリアフリー化率	○	○		
9. 都市交通基盤確保率	○	○		
10. ホームページアクセス数	業績計画書をはじめ、道路に関する様々な情報をわかり易く説明します。			